

ニュースBOX

モンゴルの成長支えた教育支援

日本モンゴル友好交流協会・熊野活行会長
国内最大の私立大学を手掛け

「教育は大事だ。教育が充実することで国が変わることを実感した」。日本モンゴル友好交流協会の熊野活行会長。写真には主に教育と医療の面からモンゴルを支援してきたこれまでをこう振り返る。熊野会長は日本国内では学校やマンションなどの水道管の赤さ



びを防止する日本システム企画(株)の代表取締役社長。また、この10年、ミャンマーに足繁く通い、奨学金を提供して教育支援にも幾つもの顔を持つ。同協会の設立は、約22年前、当時のモンゴル国外務次官バダム・O・ドルジンツェレン氏との出会いがきっかけだった。公私ともに交流を深めるうちに、モンゴルと日本の相互



モンゴル国際経済大学設立1周年記念式典時撮影(1998年9月) at

交流、相互支援を目的に1993年2月に同協会が誕生した。モンゴルで災害が起これば日本赤十字社との間の橋渡し役となり、医療品をモンゴル赤十字社に届けた。教育のためのパソコンや書籍の寄附なども仲介した。その他にも、国の発展に必要な資材も調達してきた。特に、モンゴルにとっての最大の貢献は、高等教育機関を前出のドルジンツェレン氏と共同で設立し、国内最大規模の私立大学へと成長させたことだ。設立前後、モンゴル国内は市場経済の波に洗われた。だが、国内には経済を学ぶところはなく、「金融に特化した大学を作ろう」という。ウランバートル市に新設されたモンゴル国際経済大学がそれだ。今では分校を4カ所増設するほどになっており、就職率もナンバーワンだという。

善博士号が贈られた。「モンゴル国際経済大学の卒業生たちが、今度は両国間の友好の担い手になってくれる」日本モンゴル友好交流協会HP: <http://www.nmt-00.co.jp/>

HP: <http://www.nmt-00.co.jp/>